



会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長 好本 達也
 お問い合わせ先 財務戦略統括部 I R推進部
 TEL 03-6865-7621

2022年9月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

1. セグメント別売上収益 (売上高) (対前年増減率: %)

| | 売上収益(IFRS) | | (参考)総額売上高 | |
|----------|------------|----|-------------|----|
| | 9月度 | 累計 | 9月度 | 累計 |
| 百貨店事業 | 14.8 | - | 18.3 (21.8) | - |
| SC事業 | 4.8 | - | 18.8 | - |
| デベロッパー事業 | 3.2 | - | 3.2 | - |
| 決済・金融事業 | 12.7 | - | 12.7 | - |
| その他 | ▲5.1 | - | ▲10.6 | - |
| 連結合計 | 9.9 | - | 16.1 | - |

※注) 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
 2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業(パルコSC)」の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しています。
 3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
 4. 松坂屋豊田店は、2021年9月末日をもって営業を終了しました。百貨店事業の()内は、松坂屋豊田店の値を控除した増減率を示しております。
 5. (株)大丸松坂屋百貨店は、2021年9月1日付で(株)大丸松坂屋セールスアソシエイツを吸収合併しました。
 6. 当社は、2022年2月28日付で㈱ディンプルの株式の90%を譲渡し、連結の範囲から除外しました。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- 9月度の売上高は、台風11号・14号・15号による臨時休業や営業時間短縮などの影響があったものの、前年同時期に全国主要都市で新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が実施されていたことによる反動増に加え、ラグジュアリーブランド、宝飾品などの好調持続により、大丸松坂屋百貨店合計(既存店)では対前年22.5%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計(既存店)では同21.8%増となった。
- 大丸松坂屋百貨店合計の免税売上高は対前年416.5%増(客数同572.4%増、客単価同▲23.2%減)であった。大丸松坂屋百貨店の国内売上高(免税売上の本年・前年実績を除く)は対前年16.1%増であった。
- なお大丸松坂屋百貨店の10月度の既存店売上(法人・本社等を除く)は、婦人服を中心とした秋冬物ファッションが好調に推移していることに加え、ラグジュアリーブランドも引き続き好調を維持していることなどから、16日までの累計で、対前年17%増(対2019年29%増、対2018年▲0.6%減)、国内売上高は同14%増(対2019年43%増、対2018年9%増)で推移している。※休日日数は対前年+2日、対2019年+2日、対2018年+2日。また免税売上高は対前年320%増(対2019年▲67%減、対2018年▲72%減)で推移している。

2) SC事業

- 9月度のパルコ店舗テナント取扱高は、全てのアイテム区分で前年実績を上回り、特にテナント導入および営業企画との連携を強化しているアニメ・ゲーム系コンテンツショップの好調、前年の緊急事態宣言に対する反動増が大きい飲食・旅行・映画などの大幅伸長により、全店舗計で対前年20.3%増となった。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- デベロッパー事業は、J.フロント建装が、百貨店関連改装工事やホテル内装工事の好調により増収となったことにより、トータルでも増収となった。
- 決済・金融事業のJFRカードは、グループ内の百貨店の増収や、年会費受入れの増加を主因として、増収となった。
- その他は、卸売業の大丸興業が、電子デバイスの不調を自動車部品、リテールビジネスなどがカバーし増収となったものの、(株)ディンプルを連結範囲から除外した影響が大きく、トータルでは減収となった。

【お問合せ先】 J.フロント リテイリング株式会社
 ・ I R推進部 TEL 03-6865-7621
 ・ グループ広報推進部 TEL 03-6865-7616

2022年9月度 百貨店事業 営業報告(日本基準)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

| | 9月度 | | 累計 | |
|------------|------|------|-----|------|
| | 売上高 | 入店客数 | 売上高 | 入店客数 |
| 大丸 心齋橋店 | 23.9 | 38.9 | - | - |
| 大丸 梅田店 | 17.9 | 33.2 | - | - |
| 大丸 東京店 | 38.6 | 69.8 | - | - |
| 大丸 京都店 | 26.1 | 23.5 | - | - |
| 大丸 神戸店 | 16.7 | 18.5 | - | - |
| 大丸 須磨店 | ▲2.5 | 5.5 | - | - |
| 大丸 芦屋店 | ▲5.9 | ▲0.5 | - | - |
| 大丸 札幌店 | 34.5 | 43.1 | - | - |
| 大丸 下関店 | ▲0.3 | ▲3.8 | - | - |
| 松坂屋 名古屋店 | 16.9 | 22.8 | - | - |
| 松坂屋 上野店 | 14.8 | 21.3 | - | - |
| 松坂屋 静岡店 | 14.7 | 28.6 | - | - |
| 松坂屋 高槻店 | 1.6 | 7.8 | - | - |
| 店 計 | 17.6 | 27.5 | - | - |
| 既存店計 | 21.6 | 31.1 | - | - |
| 法人・本社等 | 43.0 | - | - | - |
| 大丸松坂屋百貨店合計 | 18.6 | 27.5 | - | - |
| うち商品売上高 | 19.3 | - | - | - |
| うち不動産賃貸収入 | 3.3 | - | - | - |
| 既存店計 | 22.5 | 31.1 | - | - |
| 博多大丸 | 18.9 | 33.1 | - | - |
| 高知大丸 | ▲0.2 | 6.2 | - | - |
| 百貨店事業合計 | 18.3 | 27.6 | - | - |
| 既存店計 | 21.8 | 30.9 | - | - |

※注) 1. 松坂屋豊田店は、2021年9月末日をもって営業を終了しました。
 2. 既存店計には、松坂屋豊田店の前年実績値を含みません。

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

| | 全店計 | |
|-----------|------|----|
| | 9月度 | 累計 |
| 紳士服・洋品 | 14.4 | - |
| 婦人服・洋品 | 24.7 | - |
| 子供服・洋品 | 11.6 | - |
| その他の衣料品 | 7.1 | - |
| 衣料品計 | 22.6 | - |
| 身 回 品 | 17.6 | - |
| 化粧品 | 18.1 | - |
| 美術・宝飾・貴金属 | 28.8 | - |
| その他雑貨 | 12.1 | - |
| 雑 貨 計 | 23.2 | - |
| 家具 | 6.6 | - |
| 家電 | 5.8 | - |
| その他の家庭用品 | ▲9.2 | - |
| 家庭用品計 | ▲5.6 | - |
| 生 鮮 | ▲1.5 | - |
| 菓 子 | 27.5 | - |
| 惣 菜 | 7.1 | - |
| その他食料品 | 10.9 | - |
| 食料品計 | 12.2 | - |
| 食堂・喫茶 | 64.0 | - |
| サービス | 14.4 | - |
| そ の 他 | ▲4.8 | - |
| 合 計 | 19.3 | - |

3. 営業概況

婦人服・洋品は、ラグジュアリーブランドが引き続き好調を持続したほか、ワンピース、ジャケット、ブルゾンなどの高単価アイテムが売上を伸ばした。紳士服・洋品では、ジャケット&スラックスは苦戦したものの、スーツは好調を持続した。身回品では、旅行需要の回復により、スーツケースや旅行洋品が大きく伸ばした。雑貨では化粧品が約2割増となったほか、宝飾品も好調を持続した。食料品では生鮮食品が苦戦したものの、菓子は好調を持続し、2019年度実績も上回った。

2022年9月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

| | 9月度 | 累計 |
|------------|------|----|
| 札幌PARCO | 26.8 | - |
| 仙台PARCO | 36.5 | - |
| 新所沢PARCO | ▲3.9 | - |
| 浦和PARCO | 16.8 | - |
| 池袋PARCO | 37.9 | - |
| PARCO_ya上野 | 19.7 | - |
| ひばりが丘PARCO | 11.0 | - |
| 吉祥寺PARCO | 10.0 | - |
| 渋谷PARCO | 35.0 | - |
| 錦糸町PARCO | 27.0 | - |
| 調布PARCO | 14.0 | - |
| 津田沼PARCO | ▲0.2 | - |
| 松本PARCO | 13.5 | - |
| 静岡PARCO | 2.0 | - |
| 名古屋PARCO | 21.0 | - |
| 心斎橋PARCO | 27.9 | - |
| 広島PARCO | 12.0 | - |
| 福岡PARCO | 18.3 | - |
| 全店計 | 20.3 | - |

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

| | 全店計 | |
|-----|------|----|
| | 9月度 | 累計 |
| 衣料品 | 16.0 | - |
| 身回品 | 20.1 | - |
| 雑貨 | 22.7 | - |
| 食品 | 55.4 | - |
| 飲食 | 21.5 | - |
| その他 | 17.2 | - |
| 合計 | 20.3 | - |

3. 営業概況

- 9月は、3つの台風がそれぞれ週末に接近・上陸したことにより、一部店舗で臨時休業や時短営業となる影響があった。一方、前年9月は全国主要都市圏で緊急事態宣言が発令されており、本年はその反動増というプラス要素があった。
- このような2つの増減要因がある中で、取扱高は全てのアイテム区分で前年実績を上回り、特にテナント導入および営業企画との連携を強化しているアニメ・ゲーム系コンテンツショップの好調、前年の緊急事態宣言に対する反動増が大きい飲食・旅行・映画などの大幅伸長により、全店舗計で対前年20.3%増となった。